

総合学習（英語活動）

長谷部 学
才 鷹 一 博
山 岸 郁 生
乗 富 章 子
荒 木 泰 彦

1 英語活動の目標

全体論の総合学習でめざす子どもの姿「共に生きる社会や環境に自らはたらきかける姿」を受けて、英語活動を進める上で次の目標を設定した。

英語を使う様々な活動を通して 外国の人と積極的にコミュニケーションをはかり
共に生きていこうとする態度を育む

この目標を達成するには、子どもの発達段階や興味・関心・意欲の方向、教科の学習との関連などを考慮した上で、系統性をもって学んでいくことが大切であると考え、さらに低・中・高学年ごとの目標を設定した。ここで言う系統性とは、英語を聞き取る力、発音・発語する力、音声に伴う話し手の意図を理解する力などのコミュニケーション能力のことである。

- ☆ 低学年 簡単な英単語を使って 外国の人と仲良くなる
- ☆ 中学年 簡単な英単語や英会話文を使って 外国の人と親しくなる
- ☆ 高学年 簡単な英会話文を使って 意味や場面のおおよその状況を把握し
外国の人と親しみを持った接し方ができるようになる

昨年度と同じく英語活動を、三領域と区別した、総合学習の一分野として位置付けた。それは英語活動を、英語の運用力の習得を中心としたコミュニケーション能力やコミュニケーションへの積極性を養うことを通して「共に生きる社会や環境に自らはたらきかける姿」の育成をねらったものとしてとらえているからである。

さらに、コミュニケーションを大切にすることは、英語活動だけではなく総合学習すべてに、また特別活動にまでつながっていくと私たちは考えている。

一方では、体験的活動が重視される新しい教育の流れや、社会的要求という面から見ても、外国の人たちと直接かかわる活動は、意義深いものがあると考ええる。

2 活動を構成するにあたって

(1) 目標を具現化するために

私たちは、EAAとの活動を通して、子どもがEAAを含めた外国の人々とのコミュニケーションを自ら進んでいかうことが大切であると考えている。外国の人々とのコミュニケーションをはかることができれば、それをきっかけにして、その国の人々の生活（生き方）、考え方、文化などにまで想いが及ぶであろうし、相手のことをより深く考えることも可能になる。さらに自分たちの生活や文化と比較しながら共生ということについて考える機会にもなるであろう。

具体的な子どもの姿の現れとして、英語活動を通して「いろんな国の人たちと仲良くなりたいな、英語が少しでも話せたら便利で楽しいな。」と思えるような姿を期待している。

今年度の活動については、これまでの成果と反省を生かし、次のような方針で臨んでいる。

- ◇ 使用する言語は音声言語が中心となるように配慮する。
- ◇ 子どもが英語に対して過度に不安感を抱かないよう留意し、状況説明などは必要に応じて日本語で行う。
- ◇ 活動は原則として担任とEAAとのTTで行うが、必要に応じて学年全体で活動したり、複数の外国人講師・その他のアシスタントとの活動も考えられる。

- ◇ 活動は年間計画に基づいて行い、具体的な活動については前週のうちに学年ごとの活動計画案をもとにEAAと打ち合わせをする。

(2) 学びを深めるために

英語活動で学びを深めるとは、子ども一人一人が先に挙げた目標にポジティブに近づいていこうとすることそのものであると考えている。英語活動がほぼ一カ月に1度（年間11回）行われ、1回に一つの表現の仕方を中心に学ぶことから、1つの活動経験が次の活動や他の活動につながるように、子どもにとって印象深く、充実した活動になるようにしたい。そうすることが、子ども達の学びを深めることにつながっていくのではないかと考えた。そこで、以下の点に留意しながら活動にあたりたいと考えている。

① 一人一人が英語活動にポジティブに向かうことができるようなはたらきかけを促す

・声に出して言うことを大切にする

EAAの話していることを聴くだけでなく、その発音を真似して声に出して言うことを大切にする。日本語にない発音は難しく、子どもは戸惑いがちだが、口形をよく見、発音をしっかりと聴いて一人一人が自分の声で確かめていくことで自信を持たせたいと考えている。

・繰り返すことを大切にする

先にもふれた通り、英語活動は一カ月に1回である。子どもは前の活動の英語表現を十分に覚えていないことが多い。したがって、挨拶や歌を毎時間繰り返すのと同じように、前時の活動の一部を繰り返すことによって、自然に身につくようにしたい。また、学年が進むにつれて前に扱った英語表現に新しい表現を加えて活動する機会を増やしていきたいと考えている。

② 自然なコミュニケーションができるような英語表現の場を設定する

（楽しく、生活に役立つ活動を工夫する）

遊び感覚でしかも必要に迫られて取り組めるような活動を工夫していきたい。歌、ゲーム、遊び、場面や状況の想定などがそれにあたる。その際、これまでの活動の状況（内容面、情意面等）を十分考慮に入れて、個々が少しでもポジティブに取り組めるような活動を構成していきたい。これにより、自分なりの英語表現を試みる機会が増え、慣れ親しむことが可能になり、自信にもつながっていくと考えている。

③ 目的意識の共有化を図る

・EAAと子どものコミュニケーション活動を工夫する

EAAが発音だけを担当するのではなく、子どもと接する場面をできるだけ多く作ってきたい。特にEAAと子どもが一对一で対話する機会を多く設けたい。そうすることで、EAAの個性も十分に発揮されるであろうし、子どもの目的意識も高まるであろう。

・子ども同士のコミュニケーション活動を大切にする

EAAとのコミュニケーション活動ばかりではなく、子どもどうしでコミュニケーションを行う活動を意図的に設定していきたい。これにより、英語を使う場面が増え、習熟できるばかりか、子ども自らが活動に対する目的意識をより明確にもつことができる。さらに、子どもどうし相互に評価し合いながら、自分のその時間の英語活動の学びを体験を通して実感することができ、活動内容をより充実したものにできるのではないかと考える。

④ 子ども自身の変容の自覚を促す

内容の繰り返しと同様に、1時間の活動ごとにふりかえりをする時間を設けていきたい。特に、その時間分かったことや気づいたこと等の内容面とその時の心境や気持ちの変化等の情意面の両面が自覚できるようなふりかえりを行いたい。具体的には、ふりかえりカードに記述することが中心になるため、その時間の保障が大切になる。また、場合によっては、各自のふりかえりを交流することで、その活動のまとめとしてだけでなく次時への意識を持続させるための想いや意欲につながっていくことを期待している。

このようなふりかえりを積み重ねていくことによって、英語が子どもにとってより身近なものとなり、英語によるコミュニケーションへの自信となって欲しい。また、それが学校外でも生かされていくことを願っている。

3 実践例 - 6年 -

(1) 活動タイトル 自分から進んでHello!

(2) 年間目標 ・簡単な英語を聞いたり使ったりして、意味や場面のおおよその状況を理解し、外国の人と親しみを持った接し方ができるようになる。

(3) 活動を構成するにあたって

本校での英語活動の実践も4年目を迎える。その間、様々な実践を重ね、年間活動計画についても、その都度改善を加えてきた。そのため、別の項に示す英語活動計画案も4年前に作成したものから内容や活動のスタイルも変わってきている。

そこで、まず、今年の6年生がこれまでに各学年でどんな活動を積み重ねてきたかを洗い出した。また、子どもにアンケートを実施し、これまでの英語活動に対する意識を探ったところ、二人のEAA(English Activity Assistant)との活動を通して、以前と比べて外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする意識の高揚を伺うことができた。

そこで、さらに進んでコミュニケーションを図れるようになることや、日常生活に即した場面設定でのコミュニケーションができるようになれば、それをきっかけにして、その国の人々の生活の様子、考え方、文化などにまで想いが及ぶであろうことを願い、昨年度の活動計画案に検討を加え、本年度の活動計画案を作成した。

本実践は、まだ活動途中であり、本項では、これまでに実践した1学期分の活動について述べていくことにする。

下に示すのは、年間活動計画案のうち、1学期に実施する分を抜粋したものである。

回	主な活動内容	使用する英語
第1回	自己紹介 (自分の名前と自己アピール)	My name is ~.
第2回	家族の紹介 パート1 ・写真を持ってきて紹介する。 ・紹介しながら家族の仕事や趣味なども紹介する	This is my father. This is my mother. My father is a doctor. My mother is a housewife.
第3回	家族の紹介 パート2 ・全員が紹介する場を設定する	My father's name is ~. My mother's name is ~. My father is 40.
第4回	道の尋ね方 ・～はどこにありますか?の言い方	Excuse me, where is the busstop? Turn to the(left right) Go straight

学びを深めるために

① 一人一人が英語活動にポジティブに向かえるようなはたらきかけを促す

・声に出して言うことを大切にする

日本語にない発音もだんだんと増えてくる。子どもは戸惑いがちだが、EAAの口形をよく見、発音をしっかり聴き、またEAAに聴いてもらい、発音が正しくできたことを確かめていくことで自信を持たせたいと考えている。

・繰り返すことを大切にする

1学期の実践では、第2回、第3回で、「家族の紹介」の場面を二回続きで採り上げてい

く。前に習ったことに新しい表現を加えて活動することで、自然に繰り返す機会が増えるであろうし、新たな英語表現に対する意欲も増すであろう。

② 自然なコミュニケーションができるような英語表現の場を設定する

(楽しく、生活に役立つ活動を工夫する)

6年生とはいえ、まだまだ英語で表現することに対する不安もある。先にも述べたように、日常の生活場面を想定し、子どもにとって分かりやすい状況での英語表現となるようにしたい。またゲーム的要素を取り入れた活動や活動上意味のある歌、ダンスとなるよう選曲に留意したいと考えている。

③ 目的意識の共有化を図る

・EAAと子どものコミュニケーション活動を工夫する

一対多での発音指導だけをEAAが担当するのではなく、子どもがEAAとマンツーマンで対話する場を活動中に意図的に入れていきたい。その中で、子どもの個性が発揮されるよう自分の英語表現となるように助言したり、EAAにもなるべく自分のことを話してもらうようにする。

・子ども同士のコミュニケーション活動を大切にする

EAAとのコミュニケーション活動ばかりではなく、子ども同士で英語表現によるコミュニケーションを行う活動を設定していく。英語表現の習熟はもちろんのこと、互いに自らの活動に対する目的意識をより明確にもつことができるであろう。

④ 子ども自身の変容の自覚を促す

各活動の時間の最後には、ふりかえりをする時間を設けていきたい。特に、その時間分かったことや気づいたことなどの内容面と、その時の心境や気持ちの変化等の情意面の両面が自覚できるようにふり返しを行いたい。具体的には、ふり返しカードを作成し、それに記述することが中心になるが、ときにはそのふり返しを交流する場ももちたいと考えている。

(4) 活動の実際

先にも述べた通り、まだ1学期分の英語活動を終えた段階である。ここで、年間目標や学びを深めるための4つの視点について全てを総括することは難しいが、今後の活動を実り多きものにするためにも、活動を振り返り、考察を加えることにする。

考察の視点としては、年間目標に示された「外国の人と親しみを持った接し方ができるようになる」ことをめざし、一人一人が意欲的に取り組める活動内容であったか、そのための環境づくりが妥当であったか、毎回の活動を内容面・情意面からふり返ることが有効であったかの3点を挙げることにする。

以下、この3点に基づいて、活動の実際を述べていくことにする。

① Simple is the best! ～自分にとって身近なことから～

「My name is ○○. I'm ○○years old. I like ○○.」・・・4月の第1回英語活動では、これまでの復習から入った。内容としては昨年度までもくり返し行ってきたことであるが、6年生に進級し、新たな気持ちで1年間の活動のスタートを切るためにも、慣れ親しんだ会話で入ることが望ましいと考えた。EAAは、昨年度と同じ人であったが、新学年の、しかも第1回目ということで、ともにほどよい緊張感があった。

はじめに発音練習を繰り返し、EAAの「good!」という一言で自信を持った。その後、2つのグループに分かれて自己紹介を行った。友だちが見守る中で話すことは、これまで学習してきた内容とはいえ、緊張するようだった。それでも、ふり返しには「ちゃんと話せたので、よかった」という内容が多く見られ、歌とダンスも含めて「これからも楽しく学習したい」という意欲的な声が続いた。

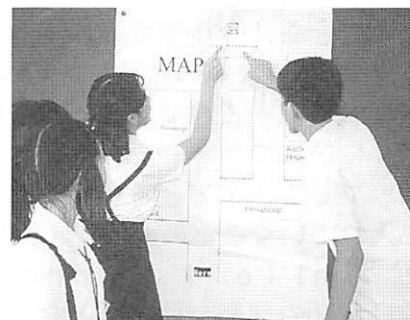
2回目・3回目の活動では、自己紹介と関連づけて家族紹介を行った。まず2回目は、父母・兄弟・姉妹・祖父母の言い方



「Hello!」

発音を学び、名前や職業・趣味などについて、紹介する練習を行った。職業・趣味については、体で表現したり、絵を描いたりして何とか英語にしようと工夫していた。そしてペアになって何度も何度も練習する姿が見られた。続く3回目の活動では家族の写真や愛用品を持ち寄り、実際に見せながら紹介していった。はじめは照れくさそうであったが、後半になるにつれて英語の言い回しに慣れ、スムーズに紹介がなされた。友だちの家族についてということもあり、興味深そうであった。

4回目の活動では、「道案内」を取り上げた。これは近年、金沢を訪れる外国の人が増え、道を聞かれた経験のある子どもが意外に多いことからである。簡単な地図を提示して、まず全員でたずね方と答え方を繰り返し練習した。次に、3人グループで、たずねる人・答える人・その通りに動いて示す人の役になり、練習を重ねた。中には、地図の中に新しい道や場所をつくって楽しむグループもいくつかあり、言い方に習熟してくるとさらに意欲的になることがうかがえた。



「How do I get to~?」

② Smile is wonderful! ~笑顔あふれる学習のための環境づくり~

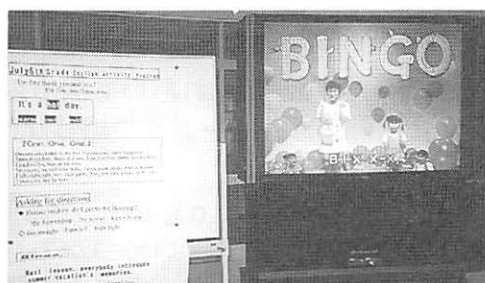
子どもにも教師にも、EAAにも笑顔があふれる。そんな時の活動は楽しい。この楽しさは、自分なりに新しい英語をマスターしたり、歌やダンスに取り組めたりした時の満足感によるものである。そのためにやってきた学習環境づくりについてふり返ってみる。

まず、「自己紹介」「家族紹介」「道案内」の3つの活動では、全員での発音練習・実演練習の後、2人もしくは3人のグループになって、くり返し練習していった。その中を、EAAと教師が個別に回り、言い回しや発音について指導していった。2回目、3回目と活動を重ねるごとに、子どもたちは「あれっ。何って言うんだっけ?」「それはね、・・・」と互いに教え合いながら、話すことをより楽しんでいた。またわからないことがあると、近くのグループにたずねたり、EAAや教師のところにやって来た。

次に、毎回取り入れた「あいさつ」「歌」「ダンス」について述べていく。「あいさつ」では「How are you? I'm fine thank you, and you? I'm fine too thank you.」の後に天気・教科・気温についての短文を入れ、少しずつ日常生活に関わる部分を加えてきた。子どもたちは、「道德って、外国にはないんだ」「家庭科は料理の勉強みたいな意味になるよ」など、自分たちの生活と比べながら学習していた。また、「歌」「ダンス」もEAAとより親しくなれるよう、英語そのものを体ごと楽しめるよう、取り入れてきた。「歌」では、英語の歌詞をそのまま提示した。「ダンス」では、ビデオを活用し、その場でくり返し踊ってきた。



Let's dance! 「BINGO!」



学習環境づくり【歌詞・ビデオ】

③ Self-knowledge ~活動のふり返りを記す~

毎回、活動終了後に「どんな活動をしたのか」「できるようになったことは何か」「感想・反省」の3つの項目で、ふり返りカードを書いている。活動後すぐにふり返るということで、短時間で書くことが可能であった。毎時間書くことによって、個々の変容が記録として残るとともにその変容ぶりが自覚できるという利点がある。

内容的には、新しく学んだ内容について、歌やダンスの部分について、自分の学習態度について記すことが多かった。

(5) 考察

① Simple is the best! ～自分にとって身近なことから～

自己紹介・家族紹介と関連した内容で行ったことで、既習内容が活用でき、子どもたちも話すことに自信が持てたようである。これまで、どちらかというと単発的なテーマが多く、その時はマスターできてもすぐに忘れてしまうマイナスの部分も見られた。今回のような連続したテーマで扱うことも、今後取り入れていきたい。ただし、中には家族のことをあまり紹介したくないという子も見られ、その面についての配慮も必要である。

道案内では「これで外国の人に聞かれても答えられる」と自信を持つ子が増え、子どもにとってすぐに役立つテーマであったと感じている。6年生だからこれくらいの内容で、少しずつレベルアップして・・・と考えることと同様に、子どもの日常から実態に応じた活動内容をタイムリーに入れていくことの大切さを感じた。

② Smile is wonderful! ～笑顔あふれる学習のための環境づくり～

次に、②の「楽しい学習となるための学習環境づくり」について、考察していく。まず、毎回のテーマの習熟を図るため、2・3人の小グループを形成したことは有効であった。これまで、どちらかというとEAA対全員という形での練習が多く、一人一人の発音等をチェックするためにEAAが巡回する時間もかなり要した。その間、待っている子どもはやや手持ち無沙汰の感があつた。しかし、小グループでの練習スタイルをとると、必然的に、一人一人が話す回数が多くなってくる。この繰り返しが、習熟する上で有効に働いた。また、わからないことがあると、他のグループや近くにいるEAAまたは教師に気軽に聞くこともできる。さらに、まとめの段階でいくつかのグループを仲間にして、たずねる役と聞く役に分け、活動に変化をもたらすことも可能である。今までの活動より「フットワークが軽い」という印象である。

一方、継続して行っている「あいさつ」「歌」「ダンス」についても、有効に働いている。「あいさつ」の部分で毎回1つずつ日常生活に関係する短文を取り入れているが、活動が終わっても「今日の感じは、It's a hot today.だね」「ちがうよ。It's a very very hot today.だよ。もう33℃あるんだよ」などと活用する姿がみられた。また、「歌」に関しては英語活動が行われる週の音楽の時間に、オリエンテーションとして少し練習している。それで、実際の活動では、全体で発音練習をした後、すぐに歌うことが可能になっている。ここでは、歌を覚えることがねらいではなく、その日のテーマに入る前のウォーミングアップにしている。また、細かいことではあるが、歌詞にカタカナをふることをやめている。発音通りに記せないことや、文字としての形を感覚的にとらえられるようにということからである。

次に、「ダンス」については好評である。たとえ、その日に学習したテーマが充分理解できなかったとしても、時間の最後に位置づけているダンスタイムにより、「やっぱり英語は楽しい」という雰囲気の中で活動を終えることができる。また、「英語の先生と手をつないで、とてもうれしかった」など、EAAとのふれあいも深められる。月1回程度の活動であるにもかかわらず会って「Hello!」と言えば距離をあまり感じないように思われる。体ごとふれあう活動は、やはり有効である。

③ Self-knowledge ～活動のふり返りを記す～

書かれている内容を見ると、いくつかのパターンに類別できる。1つは「その日のテーマへのこだわりが続く」ということで、どんな英語を学習したのか、うまく習熟できたのかといった内容で書き続けている子がこれにあたる。2つには「歌・ダンスへの思いが続く」ということで、その日のテーマよりも、歌やダンスのおもしろかった点を毎回書いている。そして、3つには「その日のトピックスを記す」ということで、1時間の活動の中で自分にとって印象深いことを書いていくものである。いずれの場合でも、毎回どんな学習をしたのかが意識化され、次回の活動への意欲づけになっていることは事実である。2学期以降も継続していくことで、さらに自分の記録が蓄積され、どのように学んできたのかが自覚されることになるであろう。以下、実際のふり返りカードの例を挙げておく。

第4回「道案内」

平成12年度 **6年英語活動 ふりがえり**

7/14	6年 / 組 17番
①今日ほとんど英語で話しましたか？ まず通はじでかきこきしたあと こたえたのをかきまじ。あとOne one one と B.I. N.G.O. した。	
②今日何を英語で話したか？ 通はじでかきこきして書入 学校 花屋 とかを書きこくように なりかきこく。	
③今日の授業の反省・感想 B.I. N.G.O. の方がかきこきかきこき かきこき。フはかきこき かきこき。	

平成12年度 **6年英語活動 ふりがえり**

7/14	6年2組の番
①今日はどんな活動をしましたか?	
"one one one" のや、"BINGO"、 "道を教えて下さい" という英語の ②月曜日ももう一回やってよ。でももう一回やってよ。 ゴッにははういけいけいんであ かるとま、おいて右に曲て 左側はまひま、ということ。 ③今日の活動の成果、感想 前に一回道を教わられた時に答えら れなかったけど、これで"one"はう いけい	

～参考資料～

英語活動実施にあたっては、前週に6年担当の教師とEAAで事前打ち合わせを行っている。活動内容の共通理解・役割分担の確認はもちろん、打ち合わせを通して、意志の疎通も図られている。

以下、6月の英語活動指導案を載せておく。



「Ok?」「No problem!」

6 年 6 月 英 語 活 動 指 導 案

June , 6th Grade English activity Plan

1 6 . 6 . 0 0

at Lunch Room

目 的 : 家族の基本的な項目紹介を英語で伝える。(学級内発表会)

(A i m : Introducing oneself family in English. (Announcement in the class)

C h . (Children) T 1 . (Their teacher) T 2 . (Ms. Cathreiona)

活動内容	T	活動の流れ・関わり方	資料・用具
1. はじめの挨拶 Greeting Time (教科)	5	T 2 . Let's start our English activity. Good morning everyone. How are you? C h . I'm fine thank you, and you? T 2 . I'm fine, too. Thank you. T 1 . Let's see our class schedule. Let's practice the subject name. <u>Japanese, Social studies, Arithmetic</u> <u>Science, Music, Physical education,</u> <u>Homemaking, Arts, Morals . . .</u> C h . ~ repeat after T1 ~	英文模造紙掲示 ネームプレート 各学級の時間割
2. 英語の歌 Singing Time	5	T 1 . Let's sing "One sunny day" C h . Let's sing "One sunny day" T 2 . 発音やイントネーションのチェック Pronunciation, Intonation	歌詞模造紙掲示 C D - R C D ラジカセ
3. 家族紹介復習 Review Time Learning Time	5	T 1 . Let's review before lesson. <u>My brother's name is ○○○.</u> <u>My mother is ○○ years old.</u> <u>My father is a ○○○.</u> <u>My sister like a ○○○.</u> C h . P r a c t i c e ・わからない単語や発音をT 2 に質問する	家族の写真 one's families photo ※家庭的に配慮が必要な場合のチェック T 1 . T 2 . は巡視し支援する
4. 家族紹介発表 Talking Time 次回の予告	20	T 1 . Let's introduce our family. ※視点は、 <u>だれを紹介するか?</u> ①名前 ②年齢 ③職業 ④趣味 ⑤好きなもの . . . C h . 一人ずつ発表 Publishing one by one. T 1 . <u>Next lesson, asking for directions.</u>	実物投影機 モニター C D - R C D ラジカセ
5. ダンス Dancing Time	8	T 1 . Let's dance "If you're happy and you know it" C h . Let's dance "If you're happy and you know it"	C D - R C D ラジカセ
6. おわりの挨拶 Greeting Time	2	T 2 . Today's lesson had finished. See you next. C h . Thank you, see you again, Good bye.	
ふりかえり		学級でプリントを分ける 個々でふりかえりを書く 担任がまとめて保管する 特記事項があれば学年会で交流する	